

## 13期 北摂の歴史ロマンを愉しむ (6月①)

### 第8回 現地探訪

日時：6月6日(金) 10:20～12:00 12:50～14:30

行程：今城塚古墳・今城塚古代歴史館～新池ハニワ工場公園

ガイド：高槻市文化財ボランティアガイド

今城塚古墳・今城塚古代歴史館 (10:20～12:00)

23名が2班に分かれてガイドさんの説明を受けながら探訪する。

#### 今城塚古墳

三島平野のほぼ中央に位置し6世紀前半に築かれた淀川流域最大級の規模を誇る前方後円墳。190mの墳丘に二重の濠がめぐり、総長350m、総幅340mを誇る。学術的には531年に没した継体天皇(聖徳太子の直系曾祖父)の陵墓と言われる。

10年間の発掘調査で分かった日本最大級の埴輪祭祀場では家・太刀・盾・武人・巫女・力士や動物など約200点の形象埴輪を復元配置されているのは全国唯一ここだけで古代のまつり(儀式)の様子が伺われる。また、1596年の伏見大地震で後円部の一部が崩落した様子など貴重な成果が得られた。

今城塚古墳は宮内庁の管理陵墓でなく、発掘調査ができた貴重な文化財遺跡で、今は整備した緑豊かな公園で自由に探訪が可能です。



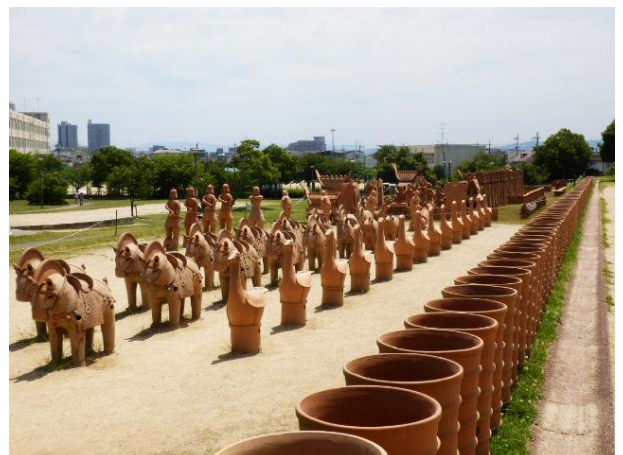
古墳を前にガイドさんの説明を受ける



後円部上で地震崩壊の説明を受ける



埴輪祭祀場で説明を受ける



復元された埴輪祭祀場の形象埴輪

## 今城塚古代歴史館

今城塚古墳に併設された古代ミュージアム。

300～600年の古墳時代に三島（現在の高槻市、茨木市）は大小合わせ500基以上の古墳群があった日本有数の古墳地帯について概要説明。その中の今城塚古墳の発掘調査の成果を中心に展示されている。

発掘調査により墳丘内石積、石室基盤技術など当時の最先端の土木技術が分かった。また、日本最大級の埴輪祭祀場では家、武人、巫女、力士や動物などの形象埴輪が発見され、そのレプリカなどを展示している。形象埴輪の鯉木と千木は神社建築の様子を伺わせる。

3基の石棺に使われた凝灰岩は奈良県、兵庫県や熊本県のもので今城塚古墳が当時の並外れた権力のもとで造られたことが伺える。



ジオラマで発掘調査の様子



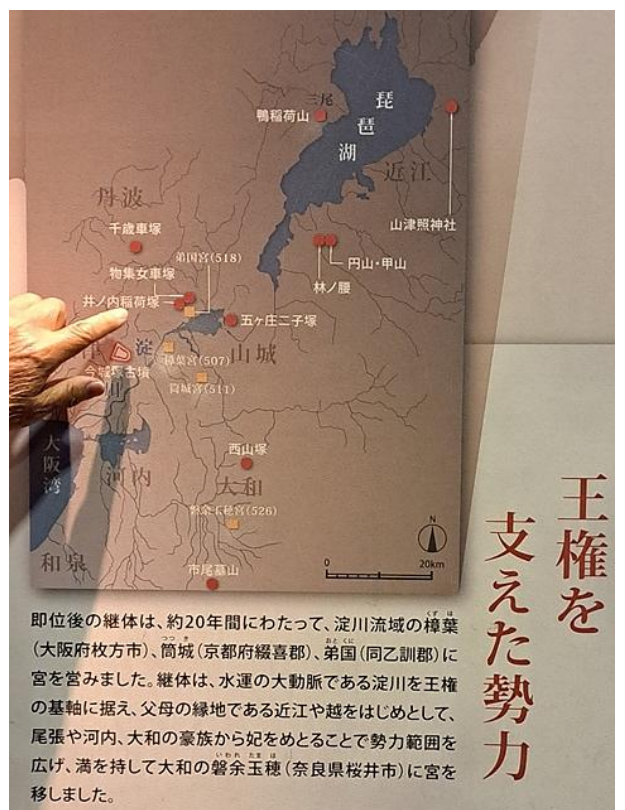
形象埴輪 鯉木 千木は神社建築



古墳の造りの様子



展示品の説明



王権を支えた勢力

即位後の継体は、約20年間にわたって、淀川流域の樟葉（大阪府枚方市）、筒城（京都府綴喜郡）、弟国（同乙訓郡）に宮を営みました。継体は、水運の大動脈である淀川を王権の基軸に据え、父母の縁地である近江や越をはじめとして、尾張や河内、大和の豪族から妃をめとることで勢力範囲を広げ、満を持して大和の磐余玉穂（奈良県桜井市）に宮を移しました。

継体天皇は即位後、樟葉（枚方市）、筒城（京都府綴喜）、弟国（乙訓）を巡り、満を  
いわれたまほ  
持ち磐余玉穂（桜井市）の都に入る

午後(12:50~14:30)は今城塚古代歴史館から2名のガイドさんと全員徒歩で新池ハニワ工場公園に向かった。途中、鬮鷄山古墳、番山古墳の説明を伺った。

### 鬮鷄山古墳

前方後円墳の後円部から未盗掘の竪穴式石室2基が発見され、三角縁神獣鏡や腕飾り、木棺の一部を確認。4世紀前半の三島の王墓と考えられる。

### 番山古墳

5世紀後半に築造された前方後円墳と推定され、土室地域を治めていた豪族のリーダーの墓とみられる。

### 新池ハニワ工場公園

日本最古・最大級のハニワ工場があった場所に当時の様子を再現している。工場は3時期およそ100年にわたって断続的に操業された。

はじめは450年頃に太田茶臼山古墳のために窯3基、工房3棟と住居7棟でハニワ造りが行われた。480年頃に新たに窯5基と住居7棟が営まれ番山古墳などのハニワを焼いた。最盛期の530年頃に今城塚古墳のために10基の窯が造られ生産のピークとなり、形象埴輪や円筒埴輪が造られた。550年頃に前方後円墳が築かれなくなり、ハニワ造りが終わった。



窯の前で説明を受ける



ハニワ工場館で登り窯の説明を受ける



工房に入る

今城塚という名称は戦国時代に城壁として利用された伝承に基づくもので江戸時代の絵図にも今城陵と記されている。

土室の地名は埴輪の製作に携わる人々が住んだことによるものと伝えられる。

鬮鷄を「つげ」と読むのは鶏鳴が信託を「告げる」ことに由来する。

今城塚古墳は宮内庁が陵墓参考地に指定していないため、調査でき、一般人も自由に入出りできる。

(一口メモ)

- ・森田先生の講義を受けてから今城塚古墳、ハニワ工場公園の現地探訪でありその様子が良く分かりました。
- ・学んだことを再認識できる楽しさは現地探訪のたまものでした。

(1班広報)